

音楽で未来は輝きだす エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO

～日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念事業～

音楽界の奇跡「エル・システマ」の全貌が今!

21世紀のクラシック音楽シーンに大きな希望を与え、世界的なスター音楽家を輩出している音楽教育「エル・システマ」。ワークショップやコンサートなどが楽しめる3日間は、その秘密を探るチャンスだ。

主催：駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館／東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)／一般社団法人エル・システマ ジャパン



エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス

欧米諸国、そしてアジアがクラシック音楽シーンをリードし、その未来を占う鍵だと言われた20世紀。しかし21世紀になると意外なことに、南米のベネズエラが脚光を浴びる。その秘密を探るキーワードは「エル・システマ」。経済的な理由などから教育を受けられない子供たちに救いの手を差し伸べるべくスタートしたこのシステムは、無償で一流の音楽教育を受けながら人間的な成長も支援するという目的により、多くの子供たちを貧困や犯罪から救ってきた。

しかも今や世界のトップシーンに躍り出たグスター・ボドゥダメル(指揮者)や、ベルリン・フィルの楽員になったエディクソン・ルイス(コントラバス)などのスター音楽家も輩出して、その教育レベルが世界的に認められているのだ。もちろん先輩たちの活躍が、ベネズエラの子供たちに与えた希望は計り知れない。

この「エル・システマ」は、私たちにどんな喜びと興奮、そして未来への希望をプレゼントしてく

れるのだろう。その答えを見つけるのが、3日間にわたって開催される『エル・システマ・フェスティバル2013 in TOKYO』。多くの若い音楽家たちがステージ狭しと並ぶ「エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」の衝撃的なコンサートをはじめ、親子で楽しめるワークショップや、社会の中の音楽といったテーマを模索するシンポジウムなどを開催。東京芸術劇場がヴィヴィッドな「黄・青・赤」の3色(ベネズエラのカラー)であふれる音楽祭となる。

3日間、每晚行われる「エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」のコンサートは、フェスティバルのハイライトだ。まるでステージから人があふれるのではないかと思うほど、たくさんの音楽家たちが並ぶ光景はパワフルで圧巻。誰もが喜びに満ちた顔をしており、音楽を演奏することの意味さえ考えさせられるほど感動してしまうだろう。

しかし、その感動をさらに奥深いものにしたい

のなら、「エル・システマ」の奇跡がどうやって生まれたかを垣間見るワークショップやシンポジウムへ足を運び、疑似体験をしながら理解を深めることをおすすめしたい。楽器に慣れ親しむためのペーパーヴァイオリン作りや、エディクソン・ルイスをゲストに迎えてのトーク・イベント(どちらも見学可能)では、教育の一コマを見ることができ

る。また有識者をパネリストに迎え、社会の中における音楽教育や、福島県相馬市ですでに稼働している日本版エル・システマの現状、聴覚障害者のために考えられたホワイハンド・コーラス(歌うことのできない子供たちが、白い手袋をして合唱を楽しむという斬新なスタイル)など、多彩なプロジェクトについてのシンポジウムが行われる。シンポジウムは無料で事前申込不要。これからもさまざまな話題を提供してくれるであろう「エル・システマ」を、じっくりと体験する最高の機会となるだろう。

文：オヤマダアツシ

インバル＝都響 新マーラー・ツィクルス 第II期 交響曲第6番～第9番

インタビュー 録音プロデューサー 江崎友淑

マーラーは聴衆の気配も音楽

マーラーの響きで鍛えられた東京芸術劇場で、インバルと都響の最後のツィクルスが大詰め。わずか2年のスパンでライブ収録に挑む録音プロデューサー江崎友淑が、新装芸劇とマーラーを素直に語った。



エアフ・インバル

再びマーラー録音に挑む

——再録音への経緯は。

インバルがチェコフィル音楽監督になったとき、フランクフルトで録音したマーラーの再録音が可能か、尋ねられた。20年も前で今と一緒のわけはないので、チェコと都響で録音しました。2年ほど前、来年からまたマーラーをやる、2年しか変わらないけど録音は、と。正直、キツイと思いましたが。そしたらインバルは、いや私は昨日言ったことと今日言うことは違う人間なんだ、証明する、と言う(笑)。そして、チェコフィルや都響で、テンポも違えばフレーズも違い、知らなかったような面白いアイデアが満載な音楽をやった。それで説得されました。インバルはマーラー指揮者として様々な引き出しがあり、自在に組合わせひとつの作品に出来る。誰も考えないような突飛な、けど理に適ったことをする。それと会場の気持ちを掴む方法、オケをリードする力。凄いですよ。

ライブの方が音が良くなる

——東京芸術劇場は録音に頻繁に使われるのですか。

はい。芸劇が改装前後で大きく違うのは電源事情。ビルには蛍光灯の点滅ノイズなど山のようにある。改装前の芸劇はクリーン電源装置で綺麗

にしていたのですが、改装後はもともと綺麗な電源が取れるようになった。音の立ち上がりもふよよかさ質感も、山の水と浄水器ほどに違う。改装後は、すっきり感や遠近感を表現する微妙な手法も使えます。これほど条件の良いホールはありません。

——録音にとって聴衆は必要なのですか。

会場が静かなときでも空気感があります。今のデジタル録音は、人の可聴帯域の5倍の高さまで録音出来る。雰囲気や気配など、音に聞こえない大事な部分が録音可能になった。カラでスタジオ録音するより満員で録音した方が、耳に良く聞こえるのです。それにお客さんが雰囲気をつくる。マーラーの9番で80分余り、咳ひとつない時間をつくれたら、演奏も極上になる。最近のライブ録音は、聴衆も音楽作りに作用しているのですよ。今回はインバルと都響の最後と皆さん判っているので、客席の参加意識はひとしおです。

——9番は楽しみですね。江崎さんが芸劇に座るならどこですか。

ちょっと上がったところ(1LB、RB)が好きですね。でも録音として聴くのは違う。やはりメインマイクのある指揮者の上かな(笑)。

録音で気持ちを伝えたい

——まず1枚と思ったら、お薦めは。

1番ですね。静寂感、楽器の音の瑞々しさ、ライブの概念を超えたクオリティで自分でも驚きました。この2、3年はマーラーを沢山やり、去年、国際マーラー協会から表彰を受け、マーラーを今に残す意味を僕なりに考えました。で、この多種多様な時代に同じ事を同じようにやっても無意味だと思った。都響のマーラー全集がひとつあり、僕の知るオーケストラの録り方はそこで使い切った。今回は新たなマイク設定で違う音。自分の理屈の中できちんと目的と方向を決め別の捉え方をしたら、こんな様々な色になる。

——マーラーは名盤が沢山ありますね。

最近、マイブームはSPなんです。時代ごとに素晴らしいものがある。レコードファンとして、良いものは普遍だと思います。

——古い録音を聴くコツは。

有り難いと思って聴くこと。CDは針を落とさないから、バツと聴いて止めて、ハイ次、ってしちゃ。でもレコーディングは大変な労力があって成されたものです。その当時に一生懸命やった人の労働を感謝して聴く。僕としても、録音に入ってるものへの気持ちがなんとか伝えられないか、いつも考えてます。

取材・構成：渡辺 和



マーラー：交響曲第1番「巨人」
発売・販売元：株式会社オクタヴィア・レコード
定価：3,200円(税抜)
OVCL-00511
http://www.octavia.co.jp/

Profile
江崎友淑 TOMOYOSHI EZAKI
オクタヴィア・レコード代表取締役。クラシック音楽の制作プロデューサー、録音エンジニア、傑作コー・キャニオンで制作ディレクターとしてCDの制作を始める。1999年、オクタヴィア・レコードを設立。これまでに、ノイマン、アッシュケナーズ、小林研一郎をはじめ多くの指揮者や演奏家の録音を手掛けている。

詳細はP13へ

<p>ワークショップ A, Cは見字可</p> <p>A ペーパーヴァイオリンを作ろう! 10月11日(金)15:30-17:30(作ろう編) 10月12日(土)11:00-12:30(セッション編) 会場:シンフォニースペース 講師:須藤亜佐子 (エル・システマジャパン相馬プロジェクト弦楽器指導担当)</p> <p>B 12時間でシンフォニーの演奏に挑戦! 10月10日(木)、11日(金)、12日(土) 統括アドバイザー:フランク・ディ・ボロ(エル・システマ創設メンバー) ほかを予定 対象楽器:各楽器2名ヴァイオリン、チェロ、フルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン</p> <p>C エディクソンと話そう! 10月10日(木)16:30-17:30 会場:コンサートホール・エントランス(5F) ※ワークショップの参加申込受付は終了しました。 お問合せ:KAJIMOTO エル・システマ室 E-mail:efes@kajimotomusic.com ★メールの場合は件名を「エル・システマ・フェス問合せ」としてください。</p>	<p>シンポジウム 事前申込不要・無料</p> <p>D エル・システマと社会問題 10月10日(木)15:30-17:30 会場:シンフォニースペース パネリスト:フランク・ディ・ボロ(エル・システマ創設メンバー) (予定) 増田ユリキ(ジャーナリスト) 山田真一(『エル・システマ』著者) 佐藤正治(KAJIMOTO エル・システマ室長)ほか</p> <p>E 日本におけるエル・システマ 10月12日(土)15:00-17:00 会場:シンフォニースペース パネリスト:石川成幸(駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使) (予定) 菊川 穰(一般社団法人エル・システマジャパン代表理事) 山田真一(『エル・システマ』著者) 星 洋子(エル・システマジャパン相馬プロジェクトコーディネーター)ほか</p> <p>F ホワイハンド・コーラス 10月12日(土)13:00-14:30 会場:シンフォニースペース 基調講演:松村真澄(ピースポート)</p>	<p>コンサート</p> <p>エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO ～日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念事業～</p> <p>指揮:ディートリヒ・バレーデス(10/10、11)、 レオン・ポットスタイン(10/12) 管弦楽:エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス コントラバス:エディクソン・ルイス(10/10) クラリネット:カリム・ソマサ(10/10) ピアノ:萩原麻未(10/11)</p> <p>10月10日(木)19:00開演 日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念ガラ・コンサート</p> <p>10月11日(金)19:00開演</p> <p>10月12日(土)18:00開演</p>
--	--	---

詳細はP11へ